

## 大会における熱中症事故の防止について（お願い）

標記については、例年、御協力をいただいているところでありますが、スポーツ活動中をはじめとして、依然として熱中症による被害が多く発生しております。

熱中症は、スポーツ等の活動前に適切な水分補給を行うとともに、必要に応じて水分や塩分の補給ができる環境を整え、活動中や終了後にも適宜補給を行うこと等の適切な措置を講ずれば十分防ぐことが可能です。また、熱中症の疑いのある症状が見られた場合には、早期に水分・塩分の補給、体温の冷却、病院への搬送等適切な処置を行うことが必要です。

つきましては、下記のとおり、大会期間中において熱中症事故防止のための適切な措置を講ずるようお願いいたします。

**1 小学生は自己管理ができない児童が多いという認識のもと、指導者及び保護者がしっかりと子どもの状況を把握・確認し、事故防止に努めてください。**

**2 ゲーム開始前及びゲーム中、ゲーム後において**

- **ゲーム前には、コーチは選手一人一人の表情に気を配り、選手の体調不良を認めたら、熱中症を疑いましょう。**
- **各クォーターのインターバル中及びタイムアウト時には、必ず水分補給をさせてからコートに出しましょう。（小学生は自分で管理できない児童が多いので、確実に確認が必要です。）** その際、チームスタッフ同士、水分補給をしたかどうかの確認を行ってください。**熱中症の危険性が高くなったと判断した場合（暑さ指数WBGTが31℃以上）、各試合の3.4Qの2分30秒を切り、ボールがデッドになった時に1分間の給水タイムを設定する。（給水時期については、審判の判断とする。また、2分30秒に近い時期にタイムアウトがあり、給水タイムの必要がないことを両チームが了承した場合は設定しなくてもよい。）** その際、コーチは戦術的な指示をしないこととする。（あくまでも給水のための時間であるため。選手の安全を確かめるためのコミュニケーションは可とする。）**審判もしくはコミッショナーが立ち会うようにする。**
- **試合終了後においても、水分補給をさせた後に話をするようにしましょう。（試合終了後に、水分補給をさせずに、コーチが長時間、叱咤激励することがないように努めてください。）**

**3 万が一、熱中症の疑いのある症状が見られた場合の対応について（特に、ゲーム後において）**

- **事故の疑い及び発生した場合は、速やかにコート主任（または審判）に連絡すること。**
- **事故の疑い及び発生した場合は、別紙（P.2）のチャート図を参考に適切に対応すること。**
- **救急車搬送が必要な場合には、コート主任は、必ず体育館管理者にその旨を伝えること。**

**4 日本スポーツ協会 <https://www.japan-sports.or.jp/>「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」等の熱中症に関する資料を確認していただき、熱中症事故防止にご協力をお願いします。また、事故を最小限にとどめるといった観点から、各チームとも氷やアイスパック（氷嚢）、経口補水液等の準備をし、大会に参加していただくようお願いします。**



# 熱中症になってしまったら

